

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価結果

		第8期介護保険事業計画に記載の内容			R5年度(年度末実績)		
保険者名	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
空知中部 広域連合 (上砂川町)	①自立支援・介護 予防・重度化防止	介護認定率を見ると、開始年度は減少(18→17.4%)したものの平成29年度より再び上昇(18.2%)。コロナ禍の影響もあり介護申請数が増え、認定率は22.9%と上昇しており、連合管内では浦臼23.0%に次いで高い。通いの場、及び出て来られない方へのサービスにより要介護になることを防ぐ必要がある。	送迎付きの転倒予防教室「足若の日」を開催します。 (事業名:「足若の日」、「ふらつとヘルシー体操」)	年度末アンケートで体力を維持・改善している人の割合80%以上	足若の日 23回/24回、実27人(延268人) ふらヘル 22回/24回、実62人(延890人)  送迎付きの運動事業として定着してきた。数値目標の指標となる年度末アンケートを令和6年4月に実施するため、年度末アンケートで1年前と体力の変化を尋ねた結果、6問中3問で82%～86%が維持・向上。残り3問で73%～79%と7割以上とはなっていた。3/6で50%達成。	△	送迎付きの運動事業に限らず、さまざまな通いの場への参加機会を増やし、介護予防につながるよう「社会参加推進事業」参加者全員にアンケートを実施し、評価する。
空知中部 広域連合 (上砂川町)	①自立支援・介護 予防・重度化防止	身近な「地域集いの場」で、サポーターが中心となって、いきいき百歳体操を毎週開催します。	65歳以上の人口の1割以上の参加率	ますますカード参加率は、左記に加え、対象事業終了後の令和6年4月以降に、ますますカードの回収となるため、4月以降に評価する。R5年度8.5%と増加している。	◎	令和5年度まで「運動継続推進事業」として実施していた「ますますカード」だが、社会参加活動自体が介護予防と捉え、対象事業を拡げ、「社会参加推進事業」として実施する。	
空知中部 広域連合 (上砂川町)	①自立支援・介護 予防・重度化防止	リハビリ専門職等が、加齢や疾病による身体機能の低下を、タイムリーかつ集中的に回復に向けて支援します。	転倒不安感尺度かつ主観的健康観で、維持・改善している人の割合80%以上	◎	個々に必要な専門職と効果的な頻度と間隔で支援できた。今後は、希望者を今までより広く募り(広報の活用など)、事業を活用できるよう図っていく。		
空知中部 広域連合 (上砂川町)	①自立支援・介護 予防・重度化防止	ボランティア養成講座を修了し、ボランティア登録した人数に対して、従事しているボランティア数が少ない。	介護予防・認知症・生活支援ボランティア養成講座の実施により、就労活動のきっかけづくりを行います。	高齢者に占めるボランティア従事者割合6.6%	・ケアサポーター養成講座の実施 ・活動の場の提供(運動教室、認知症カフェなど) ・ボランティアポイント制度の実施 ・ポイント管理(集約は社会福祉協議会) ・65歳以上高齢者数に占めるボランティア従事者割合は7.9%と数値目標は達成できた。 ※活動者数/65歳以上の高齢者数(R6.2月末現在) ・施設サロンとして、屋外活動(畑活動:略名「畑活」)を施設と協力して継続実施した。	◎	次世代の担い手確保が困難になりつつある課題があり、小学6年生を対象に毎年認知症キッズサポーター養成講座を継続し、また、企業や関係機関を対象とした認知症サポーター養成講座を再度実施し、ボランティア従事者数の維持と支援の輪の拡大を図っていく。
空知中部 広域連合 (上砂川町)	①自立支援・介護 予防・重度化防止	介護給付費の増加や介護度が重度化している現状がある。	自立支援に資するケアマネジメント支援会議を定例開催します。(75歳未満かつ事業対象者～要介護2)	自立支援型会議の実施割合100%	◎	ケアマネジメント会議対象者の介護度維持改善率は過去3年間で80%である反面、要介護認定要因第1位は、認知症であることからセルフケア支援や社会資源などの活用により介護度の重度化防止を目指す。	
空知中部 広域連合 (上砂川町)	①自立支援・介護 予防・重度化防止	認知症に対する理解不足や認知症本人とその家族が地域において参加できる場所が少ない。	認知症の理解促進により、認知症の人と共生できる体制をつくります。 (「認知症カフェ」開催など)	平均参加数に占める認知症本人とその家族の参加30%	◎	認知症になっても地域で暮らし続ける意識などが低い現状があり、今後も認知症に対する普及啓発活動を通じて共生社会の実現を目指す。	

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価結果

		第8期介護保険事業計画に記載の内容			R5年度(年度末実績)		
保険者名	区分	現状と課題	第8期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	実施内容	自己評価	課題と対応策
空知中部 広域連合	②給付適正化	介護給付を必要とする受給者を適切に認定し、受給者が真に必要とするサービスを、事業者が適切に提供できるようにするため、北海道では「第5期介護給付適正化計画」を策定し、保険者と一体となって取り組む方針としており、当連合としても重点事項として位置付けられている5項目について実施していく。	認定調査状況の適正化	調査票全件点検の実施	調査票全件である1,122件の点検を実施し、テキストに基づき、不整合がないか確認し、整合性のある認定調査となるよう認定調査員への指導を行った。	◎	調査事項と特記事項の整合性が図られていない調査票が見受けられることから、今後も認定調査の平準化をはかるため、調査員に対する指導を継続していく。
空知中部 広域連合	②給付適正化		ケアプランの点検	隔年訪問実施	5事業所計15件について、自立支援に資する適切なケアプランであるか等に着目し、ケアプラン点検を行った。	◎	利用者の自立支援に資する適切なプランであるか等に着目し実施しており、今後も継続していく。
空知中部 広域連合	②給付適正化		住宅改修及び福祉用具購入の点検	申請書類の全件点検、必要に応じた現地確認の実施	住宅改修及び福祉用具購入の申請時に全件点検を行い、住宅改修については事後訪問調査を行った。	◎	不適切な改修の申請の場合は、申請者やケアマネジャーに制度を説明し理解を図っており、今後も継続していく。
空知中部 広域連合	②給付適正化		医療情報との突合及び縦覧点検	毎月点検実施	国保連合会に委託し、帳票をもとに点検実施した。	◎	国保連合会への委託と国保連合会帳票を使用した点検を実施しており、今後も継続していく。
空知中部 広域連合	②給付適正化		介護給付費通知	年1回以上の通知の実施	年1回(8月)に全件通知を行った。	◎	計画通り実施しており、今後も継続していく。